

保護者各位 本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
 本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。
 今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。
 芦原小学校長 島田 充寿

30年度の集約

項目	具体的取組	評価者	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力①	授業研究を積極的に行い、わかる授業・できる授業の充実に努める。	教職員	90	100	「伝え合い 学び合う」の研究テーマのもと、全教職員が教材研究や授業研究を行うことができ、教職員・児童・保護者共に目標指数を上回った。特に今年度は、ペア(トリオ)トークを取り入れた授業を多く展開し、友達と伝え合うことで学ぶ楽しさを感じた児童が多かったことは成果といえる。より多くの児童が、授業で学ぶ楽しさを感じられる工夫がさらに必要であると考えられる。	教材研究や授業研究を引き続き行い、電子黒板やタブレットを効果的に取り入れた研究を深める。また、校外の研究会・講演会で学んだことを折に触れて伝え合い、本校の実態に焦点を当てた研究を進めていく。また支援員とこまめに意思疎通を取り合い、生活面や学習面でサポートできるようにしてきたことを今後も継続させたい。	教職員・児童・保護者共に目標指数を上回ったことは、大変大きな成果であったと考える。毎日多忙な中で教材研究や授業研究は大変だと思うが、個々にあった指導法を工夫し、児童の理解を深めてほしい。
	授業が分かりやすく楽しいと思う。	児童	80	83			
	日々の学習内容を理解していると思う。	保護者	80	85			
確かな学力②	漢字・計算マスターテストを実施する。	教職員	90	100	マスターテストは数年間、継続して行っているため、教職員・児童共に漢字の書き取りや計算に力を入れている。特に計算では、繰り返し学習することで計算の力が身についたと感じる児童が多い。漢字の書き取りも、自学ノートなどで熱心に学習し伸びてきている児童もいるが、結果に結びつかず力が身につけていないと感じる児童もいる。漢字の学習を工夫するなどして、児童が意欲的に学習する取り組みが必要である。	マスターテストは継続して実施する。マスターテスト表と生活チェック表を組み合わせにして保護者に結果を知らせることは浸透してきており、次年度も実施する。マスターテストは再テストをして定着を図るが、個人の能力に配慮して、達成感が持てるように工夫する。宿題や自学ノートを丁寧に取り組みないことで、学力の定着に結びつかない様子が見られるので、丁寧にじっくりと取り組むことを浸透させていく。	漢字や計算は、児童にとって取り組みやすくマスターテストは、月に1度の「チャレンジテスト」感覚で意欲的にTRYできると思う。再テストも有効だと思う。児童個々の能力が異なるため、それぞれに合わせた指導は大変だと思うが、今後も継続してほしい。
	漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。	児童	80	83			
	家で漢字や計算の勉強に取り組んでいる。	保護者	80	78			
読書活動を推進する。	読書活動の習慣化を図っている。	教職員	90	100	児童は朝学習や家庭読書の日などでは読書をしているが、「よく読書をしているという実感がもてずにいる。今年度は前期の登校時刻が変わり、朝に本を借りる時間が減ってしまったことも原因として考えられる。また、家庭ではあまり読書をしていないことに対して、何らかの手立てが必要と思われる。	「家庭読書の日」は引き続き実施するが、保護者の手で感想を必ず書いてもらうようにする。週末には「読書」の宿題を設定し、読書カードだけでなく本も持ち帰って、読書に対する意識を高める。また、「家庭学習の手引き」に読書を奨励する一文を盛り込み、繰り返し読書に対する働きかけをする。多読賞の表彰も、児童の本を読もうとする意欲につながっているため、今後も継続する。	児童は、やりたいこと・やらされることがたくさんありすぎて、時間もなかなか読書には目が向かない。学校では、隙間の時間を活用して読書しているようだが、家庭ではそのような隙間時間をつくって読書することは難しい。学校での取り組みに対して、児童と保護者に実感が持たないで、読書の大切さを家庭で考えてもらえるようにしていただきたい。本との出会いが大切ではないか。興味のある本を手にするだけで、読書の楽しさに気づき意欲的に読み出すこともある。やらされる読書にならないようにすることも大切だと思う。
	学校や家庭でよく本を読んでいる。	児童	80	62			
	学校や家庭でよく本を読んでいると思う。	保護者	80	39			
健康で安全な態度①	生活スローガン「あいさつお」を実践できる児童の育成に努める。	教職員	90	100	本校の生活スローガン「あいさつお」の中の特に「お掃除や係の仕事しっかりと」の清掃について振り返ると、協力して時間いっぱい清掃することができた児童が92%と、班長を中心に全校生が清掃活動をたいへんがんばっていることがうかがえる。今年度は、人数の都合で5年生も班長をしており、毎月の班長会や月末大掃除でも役目を果たしている。清掃時間の始まりの黙想から無言清掃につながる全校一斉の静寂な奉仕の時間で、よい伝統が培われている。7月、12月、3月の「おそうじがんばり賞」を与えられる児童もたいへん多く、子のがんばりを保護者も共に喜んでいる。	清掃時に話してしまう児童がわずかにいるが、そのほとんどは清掃についてのアドバイスである。つい話してしまったり、手を休めてしまいう児童には、担当教員が本人に向く仕事をさせたり、目標を決めたりするなど工夫して根強く指導に当たっており、継続していきたい。毎月の清掃のめあてに沿って振り返りを行い、きれいに保たれている学校を、これからも自分たちの手で美しく保つ満足感をもたせたい。	目標指数を大きく上回った結果は評価できる。学校生活において、規律を守ることとはとても大切なことで、児童と教職員との信頼関係が築けているのだと思う。特に清掃について、自分たちの学校は自分たちの手できれいにするという精神は大変良いことだと感じる。まじめに清掃に取り組む姿勢は、素晴らしいことであり、本当に良い伝統だと思う。
	協力して、時間いっぱい掃除をすることができる。	児童	90	92			
	清掃活動に真面目に取り組んでいると思う。	保護者	80	92			
健康で安全な態度②	業間の体育的活動を充実するなど、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。	教職員	90	93	休み時間は、教科の課題を完成させたり読書をするなど児童には様々な過ごし方があるが、業間に関しては、自分の目標を決めて全校生一斉にマラソンに取り組んでいる。それに熱心に取り組んでいると回答した児童は94%で、例年の成果を維持している。教職員も一緒に走り声援を送るなどしており、今年度は特に、運動の苦手な児童も毎回汗を流して根気強く走っている姿をよく見かけた。コースにもトラックの他、外周や元気山コースなど変化をつけたり、毎回マラソンカードのマス目を色塗りして記録し成果を視覚化するなど、工夫しながら走る意欲を維持できるようにしている。マラソン大会参観の保護者も多く、家庭の協力も大きい。	入学から何年間も業間マラソンを継続していくことによって、児童は、走ることへの抵抗感が減り、記録が伸びることを実感していると思われる。体力向上のために、体育の授業でも十分に走るようにさせたい。マラソン大会では、近年就学予定の園児のレースも行うようになった。就学前に参加すること、応援し合いながら走ることで、マラソンへの意欲も高められ好評である。屋体みには体育委員会によるボールの貸し出しや晴れた日は外遊びを呼びかけるなど自主的な運動も奨励しており、継続していきたい。冬場は縄跳びやゲーム的な運動を取り入れて、年間を通して体力づくりの機会を増やすようにしていきたい。	運動やマラソンが苦手な子には、つらい取り組みではあるが、自己の目標を達成するべく一生懸命取り組んでいる姿はすばらしい。タイムアップ賞は、さらに頑張ろうとする意欲につながると思う。また、全員が完走できるよう友達を応援する様子も心温まる。マラソンを含めた運動について、児童の自主的またやる気を起こさせる意味で大変良いことである。スポーツによって心身の鍛錬が図られると考える。基礎体力と運動は、学習の集中力と関係があるので、今後も継続してほしい。
	校内マラソン大会で記録がよくなるように、業間マラソンを熱心に取り組んでいる。	児童	90	94			
	体力づくりに意欲的に取り組んでいる。	保護者	80	85			
規範意識①	集団で生活するための基本的なきまりやマナーを身につける指導実践に努める。	教職員	90	94	今年度も目標指数を達成することができた。また、登校時や下校時に職員室に大きな声で挨拶をする児童が多くなったという良い伝統が伝承されていて誇らしい。しかし、児童は挨拶をしているつもりであるが、声小さくて相手に届かない児童もいる。また、児童間での挨拶が少ないなど、時間や場所、相手が変わると挨拶ができない児童がいるように思われる。	特定の場所や特定の人だけでなく、いつでも、どこでも、だれにでも挨拶をする気持ちを育んでいきたい。そのために、普段誰と挨拶ができていのか、児童自身で振り返れるようにしたい。挨拶チェック週間などを設け、家の人、先生、友達同士、下級生、地域の人と挨拶したかを自分で記録し、誰にでも挨拶をする態度を根付かせる。	挨拶は、人と人との基本的なマナーであり、大人になっても大切なことである。地域では、「元気よく挨拶してくれる。」や「挨拶の声が小さい。」といった反響の評価がある。大人からの声かけも大事だが、不審者等の社会問題もあり児童への働きかけが難しい状況もある。集団登校では、班長など高学年が挨拶すると低学年も挨拶が必要だと感じて、挨拶が広がっていくのはいいか。
	進んで挨拶したり、大きな声で返事をしている。	児童	80	90			
	基本的なマナーが身についていると思う。(先生や友だち、地域の人への挨拶)	保護者	80	90			
規範意識②	当たり前前のが、当たり前前のできる児童の育成に努める。	教職員	90	93	いずれも目標指数は上回っている。ほとんどの児童が学校内での生活の決まりをよく守り、落ち着いた授業を受け、各活動に取り組んでいる。概ね校内や校外の生活においても約束事を守って生活できている。校内では例年問題となっているのが廊下を走る児童が多いという点である。天気が悪くて外で遊べない日に走る児童が多くなっている。	廊下歩行を呼びかける係を、全校児童でレレーする取り組みを行っている。児童による呼びかけなので、言うことを聞いてくれないという課題はあるが、廊下歩行や安全に対する意識を高める点では効果的であった。来年度も引き続き、児童相互による呼びかけ運動を続けていく。	約束事を守ることも社会の規範である。学校は社会生活のルールを学ぶ場でもあるので、児童全員で意識を高め、規範意識を身につけてほしい。生活チェック表で振り返ったり、反省したりする取り組みは良いことだと思う。
	学校で決められた約束事の指導に取り組んでいる	児童	80	92			
	学校で決められている約束事を守っている	保護者					

思いやりの心①	異なる意見や考え方を尊重し、個を大切にした指導の充実に努める。	話し合い活動や発表活動を実施している。	教職員	80	100	今年度の研究の柱の一つである「ペア(トリオ)トーク」では、異なる意見や考え方も尊重することを大切にしている。また、木曜朝学習の「なかよしタイム」でも、友達と関わる喜びを感じられるような取り組みを行ってきた。他者とのふれあいを楽しむことで、他者への理解を深め、他者を尊重しようとする児童が増えてきている。保護者の評価も得られたので、今後も継続していきたい。	教職員は、授業の中で、ペアやトリオで話し合いや発表ができるような学習活動を引き続き実施していく。児童にも「自分の思いを伝え、他の思いを受け止める」ことが思いやりにつながることを体験を通して理解させ、学習にも取り入れていく。	ペアトークはいろいろな場面で効果が狙えるような取り組みと思われる。大勢の前では意見が言えない児童も2~3人の前なら表現することができる。自分の意見を主張し、かつ異なる意見や考え方を尊重することは大事であり、他者とのふれあいができる基本である。今後も工夫した指導をお願いしたい。
		様々な学習活動や生活の場面で、自分の思いを伝え、他の思いを受けとめることができる。	児童	70	78			
		一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指導を行っている。	保護者	70	92			
思いやりの心②	道徳の時間をはじめとし、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	道徳の時間をはじめ、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	教職員	80	100	教職員・児童・保護者共に目標指数に達することができた。継続して道徳の授業で「思いやり」について話し合い、さまざまな場面で実践できる児童を育てていきたい。また、あらゆる教科や活動を通して感謝の気持ちをもてるようにし、事後には必ず感謝の心を伝えるようにしていく。	来年度も体験を通して「思いやりの心」や「感謝の心」が伝わるような機会を設ける。また、昼休みなどに発表の場を設けて異学年で交流できる機会を増やしたり、縦割り班活動で異学年の交流を図ったりする。	人として、思いやりの心や感謝の心をもつことは非常に大事である。相手の気持ちになって考え、多方面から物事を捉えることができる。とても難しいことだが、ぜひそんな心が育つことを願っている。スポーツを通して、思いやりの心などを教えているつもりだが、最近の児童は個人主義というのか、あまり団体行動を好きではないらしく難しくなってきた。
		思いやりや感謝の心が育っている。	児童	80	91			
		思いやりや感謝の心が育っている。	保護者	80	92			
	いじめの防止等の対策に取り組み、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりに努める。	いじめに対し、未然防止、早期対応に努めている。	教職員	80	100			
	いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいる。	児童	80	85				
	いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいると思う。	保護者	80	85				
	「いじめ防止基本方針」を理解している。	保護者	70	67				
2学期制の施行	授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。	楽しくわかりやすい授業を行うとともに、時間をかけるよう心がけている。	教職員	80	100	教職員、児童、保護者とも、目標指数を上回った。2学期制のメリットを効果的に活用し、長期休業前まで通常の学習ができることや休業中の学びを後半の授業に活かすことで、より系統性のある指導をすることができた結果と考えられる。また、算数でのTT指導や担任と支援員が協力して指導にあたることで、個に応じた丁寧な指導が実施できていると思われる。	2学期制のメリットである授業の連続性を生かしながら、今後も児童一人一人に寄り添い、よりきめ細やかな指導を職員全体で心がけていく。特に日々の授業改善に努め、「楽しく、わかる授業」づくりにしっかりと取り組んでいく。	教員が、「楽しく、わかる授業」づくりにしっかりと取り組んでいる成果として、児童・保護者とも良い結果となっている。授業時数の確保など2学期制のメリットが生かされているなら良い。2学期制については、保護者もずいぶん慣れてきた。
		先生は、楽しくわかりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。	児童	80	89			
		一人ひとりを大切にしたり、分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいると思う。	保護者	80	88			
	児童生徒とふれあう時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	日常の対話により児童の姿を把握するように努め、きめ細かな対応を行っている。	教職員	80	100	児童の満足度は、昨年度に比べると高まっているが、まだ目標指数に達していない。教職員の意識と児童の満足度にずれが見られる。限られた時間の中で、一人ひとりの児童とコミュニケーションを図れるよう工夫していく必要がある。	児童となお一層のコミュニケーションを図るため、よりいっそうの工夫をしていく。例えば現在、年に2回行っている「教育相談週間」を3回に増やし、定期的に実施しているアンケート結果も生かしながら、教員が児童の思いをしっかりと把握していく。また、日々の学校生活の中で、教師と児童がゆったりと向き合える時間を確保するため、業務改善に努めていく。	教職員が、児童一人ひとりとコミュニケーションを図ることは大変なことだと思うが、可能な限り児童と話す時間をもつよう努めてほしい。また、ふれあう時間を増やすことはもちろん大切だが、それ以前に、児童から信頼される教師となることも大事である。良い関係づくりに努めてほしい。
		先生と、学習や生活について話をする時間がある。	児童	80	78			
	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	教職員	80	94			
	夏休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	児童	80	90				
	夏休みの期間中は計画的に課題に取り組んでいる。	保護者	80	77				
学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	教職員	80	100	昨年よりややポイントを下げているが、保護者の満足度は大変高い結果となっている。学校での子ども達の学びの姿を保護者にしっかりと伝えるため、教員は個人懇談や通知表を通して丁寧に児童のがんばりを伝えるよう努めている。また学習の成果であるワークシートや製作物等を工夫して展示するなど環境整備にも努めていることが保護者の理解につながっていると思われる。	今年度から道徳の教科化や外国語の学習など通知表の内容も大きく変わっている。個人懇談時に丁寧に説明をすることで、子ども達の学習や生活の様子を丁寧に保護者に伝えていく。そのために、資料等についても工夫を重ね、より分かりやすく保護者に情報を伝えていく。また、ホームページの更新をできるだけ頻繁に行い、学校からの情報発信に努めていく。	個人懇談や教員に子どもの様子聞くことはもちろん大事だが、限られた時間でより良い懇談をするためにも、日頃から子どもに学校での様子を伝えておくことも大切だと思う。親子の会話が大変である。	
	先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	児童	80	89				
	個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	93				
開かれた学校	教育活動を積極的に公開する。	計画的に学校を公開する。	教職員	80	100	学校公開時に参加する保護者の数が年々増加している。学校開放予定日を年度当初や毎月の学年通信・ホームページ等で公開したり、児童の活動の様子を丁寧に知らせたりすることで、学校行事に関心をもってもらっていることが伸びにつながっていると思われる。特に6月に実施したPTAふれあい学級や11月のオープンスクールでは、各学年で多くの保護者の来校が見られた。今年度も学校公開の際には保護者アンケートを実施し、保護者や地域の方の意見をいただくことでより開かれた学校づくりに役立っている。	学校公開は、児童や教員にとっても日頃の学習の成果を見ていただく大切な場である。今後も学校公開を重要な行事としてとらえ、保護者アンケート等を活用しながら、より参加しやすい公開の在り方について検討していく。	学校開放は、保護者としてとてもありがたい。子どもの集団生活の様子や友達との関わりなど社会の中で我が子を見ることのできる。共通の話題も増え、子どもの良いところを見つけてほめたり、声を掛けたりする機会にもなる。今後も取り組みを続けてほしい。少子化に伴い、大人の子どもの過保護が取り沙汰されてからもうかなり経過しているが、不必要な学校への送り迎えが気になる。中学生になるともう完全に送迎が当たり前になっている家庭が非常に多い。これでは子どもが自立できないのではないかと。
		学校公開に多くの保護者が参加することができる。	保護者	60	80			
		学校での子どもの様子や活動ぶりを知ることができる。	保護者	70	87			
	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	教職員	80	100			
	保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。	保護者	80	92				